



季節の言の葉こよみプリント「八月」

なまえ

葉月 (八月)



二十四節気・七十二候

日本の季節を表す言葉です。(※は七十二候の一部)

八月八日ごろ

立秋 (こよみの上で、秋が始まる日)

八月十三日ごろ

* 寒蝉鳴 (ひぐらしが鳴き始める)

八月十八日ごろ

* 蒙霧升降 (深い霧が立ちこめる)

八月二十三日ごろ

* 綿柎開 (綿の花を包むがくが開く)

八月二十三日ごろ

処暑 (暑さが落ち着き始める)



日本の言の葉

閑かさや 岩にしみ入る
蟬の声

松尾芭蕉

【意味】(山寺の岩山にて) なんとしずかなのだらう。
せみの声だけが岩にしみ入るように聞こえている。

朝顔に つるべとられて
もらひ水

千代女

【意味】朝顔が、井戸のつるべ(水をくむおけ)の縄に、
つるをからめて咲いている。切るのはいそいそ
なので、となりの家から水をもらってきた。

・上の俳句を、声に出して読みましょう。
・「せみ」(夏の季語)や「朝顔」(秋の季語)を
入れた俳句(五・七・五)を作りましょう。